

博士課程

2019

授業科目 〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院  
芸術文化学研究所

## 授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

## 大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究 I	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究 II	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	22
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	23
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	24
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	25
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	26
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	27
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	28
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	29
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	30
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	31
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	32

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90227	琉球楽劇論研究 (奇数年度開講)	4単位 通年	1・2	講義	鈴木 耕太

■テーマ 琉球の楽劇である組踊を総合的に考える。

#### ■授業の概要

琉球芸能の中から、おもに組踊について総合的に学習する。琉球芸能史の中から組踊上演以前の芸能の歴史、組踊の上演された歴史(概説)を踏まえたうえで、組踊に影響を与えた芸能・文学を検討する。そして、組踊という芸能のもつ表現や約束事、様式などを、歴史資料と組踊の詞章を通して学習する。

#### ■到達目標

- ・近世における組踊の上演史を理解することができる。
- ・近世における組踊上演の空間を把握することができる。
- ・組踊の詞章について読解することができ、逐語訳・意識・鑑賞することができる。

#### ■授業計画・方法

必要に応じてパソコンによるプレゼンテーション、板書、音楽、映像、その他様々な資料を利用して講義を進める。

- |                                       |                                       |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 冊封使録関係資料にみえる、組踊誕生前の冊封芸能史について       | 16. 近世における御冠船芸能の舞台空間                  |
| 2. 組踊上演の歴史について・現存する組踊についての概説          | 17. 近世における衣裳について                      |
| 3. 「執心鐘入」の詞章分析『琉球戯曲集』53～61頁           | 18. 「執心鐘入」の演出研究Ⅰ                      |
| 4. 「執心鐘入」の詞章分析『琉球戯曲集』62～69頁           | 19. 「執心鐘入」の演出研究Ⅱ                      |
| 5. 「執心鐘入」の詞章分析『琉球戯曲集』69～76頁           | 20. 「二童敵討」の演出研究                       |
| 6. 「執心鐘入」の詞章分析『琉球戯曲集』76～88頁           | 21. 「銘苺子」の演出研究                        |
| 7. 「執心鐘入」の詞章分析のまとめ                    | 22. 田里朝直作品の演出研究                       |
| 8. 組踊の仇討物とジャンルについて                    | 23. 「大川敵討」の演出研究                       |
| 9. 「二童敵討」の詞章分析『琉球戯曲集』22～30頁           | 24. 組踊と音曲Ⅰ                            |
| 10. 「二童敵討」の詞章分析『琉球戯曲集』31～40頁          | 25. 組踊と音曲Ⅱ                            |
| 11. 「二童敵討」の詞章分析『琉球戯曲集』40～50頁          | 26. 「執心鐘入」演出の違い(琉球政府時代)               |
| 12. 「二童敵討」の詞章分析のまとめ                   | 27. 「執心鐘入」演出の違い(2010年代)               |
| 13. 玉城朝薫の組踊と田里朝直の組踊の詞章について            | 28. 組踊の台本と演出について                      |
| 14. 田里朝直以降の組踊の詞章について                  | 29. 組踊の創作・新作について                      |
| 15. 前期の解説・まとめ(これまでの補足)<br>定期試験は実施しない。 | 30. 後期の解説・まとめ(これまでの補足)<br>定期試験は実施しない。 |

#### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

履修にあたって、組踊の台本をあらかじめ音読できるようにしておくことが望ましい。予習として折口信夫の論文「組踊り以前」(『校注 琉球戯曲集』所収)を読んでおくこと。また、『校注 琉球戯曲集』所収の「執心鐘入」「護佐丸敵討」を読んでおくこと。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 期末課題(60%)、講義への参加度(講義内での発言、リアクションペーパー、小課題など)(40%)で評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化科学研究科(後期博士課程)の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

#### ■教科書・参考文献(資料)等

□教科書 なし。講義用レジュメや資料を配布する。

□テキスト なし。講義用レジュメや資料を配布する。

□参考文献 伊波普猷『校注 琉球戯曲集』(榕樹書林 1992年) 国立劇場おきなわ編『琉球・沖縄芸能史年表』(古琉球～近代編)(国立劇場おきなわ 2010年) 矢野輝雄『組踊への招待』(琉球新報社 2001年) 矢野輝雄『組踊を聴く』(瑞木書房 2003年)